

# 主体的・対話的で深い学びに 向かう研究委員会

研究委員会会長 片桐 茂和



上高井教育会の中で、教科等研究委員会は大きな柱です。その長い歴史の中で培われてきた、学校の枠を越えて郡内の先生方が集まり、情報交換し、授業について互いに研究し合う上高井独自の研究委員会というシステムは、かけがえのないものです。いよいよ本年度(令和二年

度は小学校で、次年度(令和三年度)は中学校で、新学習指導要領が全面実施となります。新学習指導要領では、「何が出来るようになるか」の資質・能力を育成することが述べられ、それを実現するために、「どのように学ぶか」に当たる、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが述べられています。主体的・対話的で深い学び

# 同好会の発足にあたって しなやかな自分軸をつくる

同好会会長 岡田 憲和



多様な社会の中で、将来の変化を予測することが困難な時代を迎えています。また、社会の変化の影響が、身近な生活を含め、社会のあらゆる領域に及んでいる中で、教育の在り方も新たな場面に直面しています。こうした中、閉塞した自分自身の経験値

のみにとらわれていては、変化への対応は難しいと言わざるを得ません。そこで、私たちは、不易なるものを大切にしつつも、様々な研修を通して学んだ教育観をもとにしたしなやかな自分軸をつくり上げていく必要があるように感じます。上高井教育会では、歴史と伝統を受け継ぐ中で、同好会に寄せて専門性や教養の高まり、さらには、人間関係の広がりや大

# 「夢中になれる時間」

美術同好会会長 永井 文章

二つの講習会について紹介いたします。

☆夏期人物画講習会  
東京からモデルさんをお呼びしての裸婦人物画講習会。常連さんから、初参加の学生さんまで、描くことに没頭する夏休みの三日間。鉛筆デッサン、水彩画、油絵と画材も描き方も十人十色。対象の捉え方、表現技術、絵を描く気持ちなど、たくさん学ばせていただきます。(＊本年度は、新型コロナウイルス感

染防止のため休止します。) ☆陶芸講習会  
萩原恒夫先生(上高井美術同好会OB・須坂陶芸教室主宰)にご指導していただきます。十二月から三月にかけて、金曜日の夕方に四日間行う予定です。郡外から戻った私は、昨年七月ぶりに参加させていただき、電動ろくろを使って、「飯茶碗づくりに挑戦しました。板作りの技法で秋刀魚皿を仕上げた方は、残った粘土の塊から、かわい

い猫を作り出し、参加者のお子



皆さんにプレゼントしました。萩原先生は、一人一人の願いや技量に合わせた指導をしてくださいました。作ってみたい方は永井まで連絡ください。(小布施中)

# 理科同好会を紹介します

理科同好会会長 小林 秀行

理科同好会では、例年、「出前講座」や「実験講習会」を行っています。「理科同好会」というと理科の免許をもっている先生方が参加するようなイメージがありますが、そんなこともなく、他教科の先生が参加しても楽しめるようなことを行っています。

昨年度の出前講座は、信州大工学部教授の中村正行先生を講師に招き、「風車を作って環境問題を学ぼう」をテーマに、体験を行いました。紙や竹ひごを



使っているいろいろな種類の風車を作り、実際に発電をさせながら

風のエネルギーを利用する機械の仕組みを学びました。実際に作ったものを持ち帰り、子どもたちに見せることができる好評な講座となりました。実験講習会は、教材会社の方を講師に招いて行いました。新学習指導要領で扱われる「中学校のダニエル電池装置」、「小学校のプログラミングスウィッチ」など、現場のニーズがある教材を紹介してもらい、明日の授業にすぐ活かせる講習会になりました。

実験・演習をすると、いつも新たな発見ばかりです。ぜひ、多くの先生方に参加していただき、一緒に楽しみませんか？(常盤中)



「すごい、これめちゃうくちゃ入ってる」乾燥させた菜の花のさやを手にした子どもたちの目が輝きます。

「やっぱり秋に種を撒くって大事だね」「文献の方法で収穫したら種がとれた」次から次へと零れ落ちる菜の花の種。歓喜の声を上げながら集める子どもたちの顔には、収穫の喜びが溢れていました。

昨年春、小布施町が昔は菜種の栽培が盛んで、良質の菜種の生産地であることを知った子どもたちは、春撒きの菜種栽培に挑戦しました。しかし、害虫や酷暑の被害を受け、ほとんどのさやには実が入っていませんでした。わずかに実った種も収穫時期やその方法が分からず、収穫量はほぼ0という結果でした。この経験で感じ取った「季節に合わせて作物を栽培す



そして来年こそはと秋にとき直し、降り積った雪をそっと払いのけ育てた菜種。「これだけ種があれば、相当油がとれるね」「もう一回、明かりを灯そうよ」「また影絵を作れば楽しそうじゃん」興奮気味に語る子どもたちは、昨年の経験を糧に、また一つ成長し、次の一歩を歩み出しています。(鈴木 貴善)

# 本校の宝 76

## 「受け継がれる伝統」

墨坂中学校

本校は、一昨年度に六十周年式典を挙行し、昭和三十三年の開校から、多くの伝統を受け継いできた歴史ある学校です。その伝統は、現在、「四つの柱」となり、本校の生徒の誇りとして息づいています。

四つの柱の一つ目は、「挨拶」です。礼儀正しく挨拶のできる生徒は、本校の自慢です。来校した方にお褒めいただくことも珍しくありません。今は、コロナ禍で大変な時期ですが、「3m先、自分から、挨拶」を合言葉に、より清らかな挨拶が飛び交う学校にしていきたいです。

二つ目は、「歌声」です。音楽会のみならず、記念行事や二学年次の立志式等でも、心震える合唱をつくり上げてきました。生徒の日記「あゆみ」や生徒会誌「松風」にも、合唱への熱い思いがたくさん綴られています。

三つ目は、「清掃」です。膝をついて無言で四回がけをする生徒の姿が、引き継がれています。「自分のため、校舎のため、先輩のため、まだ見ぬ後輩のため」の四つを心中で唱え、心も一緒に磨きます。



本校の伝統の形は、時代と共に少しずつ変化しているでしょう。しかし、「強く、賢く、共有」の精神は全く揺らぐことなく受け継がれています。(櫻田 智也)